

てんかん地域診療連携体制整備事業

2019 年度石川県拠点機関としての活動状況報告書

医療法人浅ノ川、浅ノ川総合病院てんかんセンター

てんかんセンター長 廣瀬源二郎

1. てんかん地域診療連携体制整備

当院では 2013 年よりてんかんセンター（てんかん専門医 2 名のうち脳外科医 1 名を含む）を設置しており、同年より 4 年間石川県からの『石川県高度・専門医療人材養成支援事業補助金』約 400 万円を受諾して、県内てんかん専門医の育成を民間病院として努力を重ね、年 1 回の医師対象のてんかん診断と治療に関する研修講演会、と月 1 回のビデオ・脳波モニター患者を中心とする脳波判読カンファレンス（2 時間 30 分、日本てんかん学会単位取得認定済み）を当院内で開催してきた。出席者は毎回 10-12 名（てんかん専門医 6 名）で、3-4 例のモニター脳波を中心に画像（3T-MRI, SPECT, PET など）の供覧とモニター脳波のクリップしたものを呈示して討論している。また当外来で診断された稀なてんかん症候群患者についても教育的見地から呈示している。

本年後半教育症例では hypnic jerk とミオクローヌス発作の鑑別、体幹回転性てんかん発作、脳室周囲ヘテロトピアに合併するてんかん発作 (Filamin A 変異) などである。これらの努力が実り、2017 年に 4 人、2019 年に 1 人の新専門医が誕生しており、2018 年には他県からの編入による専門医 1 名を加えて合計 8 名となり、てんかん学会認定専門医が県内（金沢市 6 名、河北郡 1 名、七尾市 1 名）で夫々てんかん地域医療に貢献している。手術希望例は当センターへ紹介され、ビデオ脳波モニター検査に加えて 3T-MRI, SPECT, PET 検査を施行し、術前・術後の患者の状態の情報提供をカンファレンス中に行っている。

2018 年 10 月当院センターが厚労省によるてんかん地域診療連携整備事業として『石川県てんかん診療拠点機関』として選定されたとは言え、北陸唯一のてんかんセンターとして石川県のみならず富山県、福井県からも多くの患者の紹介をうけ拠点機関選定前と変わらず粛々と医療活動を行っており、今後も全国の拠点機関と連携をとり、てんかん患者のための適切なてんかん医療、種々の援助を広めていきたいと考えている。

2. 事業開始後の進捗状況

1) 石川県てんかん治療ネットワークの設立

県下の全てんかん患者のリスト作成、患者の居住地域ごとに保健所で一次管理

をして、問題あれば家庭、学校から先ず保健所に連絡して、各地域保健婦から当コーディネーターに連絡、ここで相談事項の振り分けを行って対処するというネットワークを構成しようと考えている。

上記の計画を進めるため石川県教育委員会および金沢市教育委員会へ連絡して、小中高校の保健婦あるいは健康担当教員を対象に『てんかん児の発作に対する対処法』の出前研修を希望するか否かを問うたところ、現時点では定期的スケジュールもあり、新たな事業を取り込むには2年間の時間が必要として、この計画は実現していない。

2) てんかんセンターのコーディネーター業務開始

2019年3月より半専従（看護師）のコーディネーター1名が当センターへのてんかんに関する相談を受け付ける制度を開始した。

コーディネーターが受けた電話相談件数は10件（うち小児例1件）であった。その内訳は、男性4名、女性6名であり、県内居住者5名、県外者4名（北海道、東京都、三重県、京都府）、不明（住所申請拒否）1名であった。

相談内容では 1) 受診希望：3件

2) てんかん, てんかん発作に対する理解不足からの不安：7件

3) 治療に対する不安・不満：4件（複数相談は重複あり）

全例でコーディネーターからの相談内容の検討を複数で行い、主にセンター長が対応を指示して適切な返事をコーディネーターから後日相談者に伝えている。

3) てんかん患者用『てんかんガイド』第3版の発刊

当院では紹介てんかん患者の受診時に『てんかんガイド』なる17頁からなる小冊子（Fig. 1）を配布して、患者本人はもとよりその家族にもてんかんを正しく理解していただき、安心して適切な治療を受けることができるように指導している。

その項目内容としては次の7項目

1. てんかんという病気を知ろう
2. てんかんの診断
3. てんかん診断のための検査
4. てんかんの治療
5. てんかん患者の生活
6. てんかんについての情報
7. 緊急カードを作成しましょう

を取りあげて判り易く解説している。

第3版からは“7. 緊急カードを作成しましょう”に新たに対応して、その巻末には緊急カードの作成を勧め、住所、氏名、服薬抗てんかん薬名、緊急連絡時電話番号 を記入しやすい折り込みカードを添付して使用を呼び掛けている（図右）。

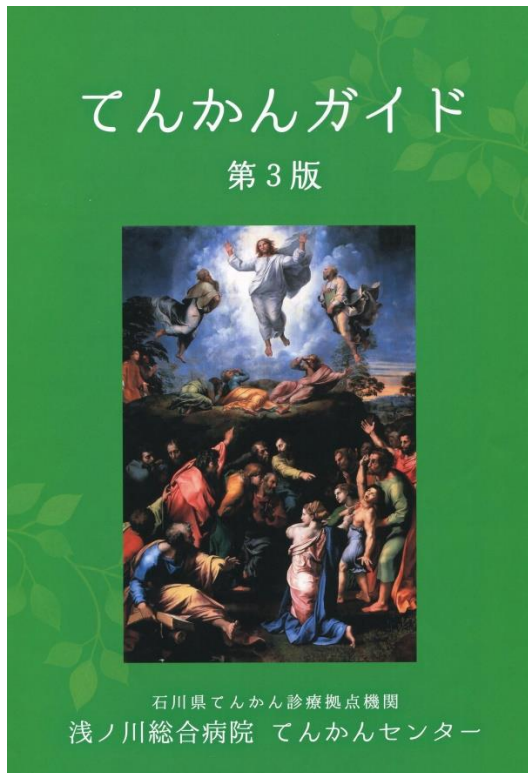


Fig 1

4) 当センターの2019年度診療活動実績

また当てんかんセンターの2019年12月末日までの診療実績はほぼ例年通りであり、てんかん手術患者数も25名であった。その内訳は；

- ・側頭葉切除術 4例
- ・焦点切除術 4例、(このうち2例で術前・術中頭蓋内電極植え込み術施行)
- ・脳梁離断術 3例 (乳児 West 症候群 2例、難治性前頭葉てんかん 1例)
- ・電池交換を含む VNS は 12 例 (内 4 例は新規植え込み術施行)

となっている。

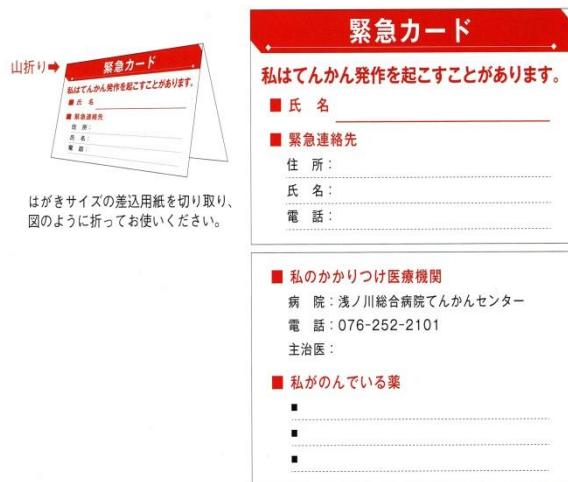
ここに当センターの2019年度(1月～12月)の全診療実績を表にして示す。

表。浅ノ川総合病院てんかんセンター診療実績

	小児科	脳神経内科	脳神経外科	合計
てんかん外来新患者数	55	128	163	346
てんかん外来受診数	974	2722	3296	6992
てんかん入院患者数(年総数)	33	105	328	466
てんかん在院患者数 (1日当たり)	0.09	0.29	0.90	1.28
てんかん手術患者数	0	0	25	25
ビデオ・脳波モニタリング患者数	32	43	44	119

07 緊急カードを作成しましょう

カードに必要な情報を記入して携帯しておく、緊急時に役立ちます。
自分の緊急カードを作成しましょう。



はがきサイズの差込用紙を切り取り、図のように折ってお使いください。

外来新患患者の居住県は石川県 70%、富山県 20%、福井県 9%、その他 1%であり石川県のみならず北陸 3 県にわたっていたことが判明した。

また過去 3 年間の当センターのてんかん患者受診状況と手術例 実績をまとめたので下記に示す(但し年総数：365 日、外来診療日数：279 日)。

てんかん患者受診状況調査・件数

		2017	2018	2019
受診患者数(実数)	入院	397	388	466
	外来	1190	1301	1034
受診患者年齢	成人	1117	1192	951
	小児	73	109	83
受診患者性別	男	663	670	580
	女	527	541	454
長時間ビデオ脳波モニタリング検査実施数		70	78	106
外科手術件数		8	17	25
紹介した患者数		328	314	249
紹介された患者数		701	564	503

※成人科：脳神経内科、脳神経外科

てんかん在院日数

以上